

池田市の未来を語るサロン 開催報告

1. 開催概要

- 日 程：令和2年11月28日（土）13:30～16:30
- 場 所：池田市保健福祉総合センター 大会議室
- オンライン：特別講演をライブ配信。講演後1か月限定アーカイブ配信。
- 参加者数：延べ28名 ＊特別講演23名（うちオンライン4名）、サロン24名
- 主 催：池田市
- 共 催：大阪大学大学院 工学研究科
- 企画運営：（株）地域計画建築研究所（アルパック）

2. 趣旨・内容

■開催趣旨

「子育て」や「教育」は若い世代を中心に市民の関心やニーズも高く、未来の本市を考える上でとても重要なテーマです。

大阪大学大学院工学研究科と共催で開催した当サロンでは、「第7次池田市総合計画」の策定の参考とするため、子育てや教育に関心がある市民にお集まりいただき、「未来の池田市の教育・子育て環境はどうあるべきか」について、取組方法やアイデアを話し合いました。



■内容

①特別講演

「自分と社会をよくする子育て環境に向けて」

講師：白井智子氏

NPO法人 新公益連盟 代表理事／NPO法人 トイボックス アドバイザー
／スマイルファクトリー 校長

②サロン（参加者どうしでの話し合い）

テーマ：「池田市の“未来”の子育て・教育を考えた時の○○」

○○は、各テーブルのテーマ

- Aテーブル：公園、自然、外遊び
- Bテーブル：小中学校、幼稚園
- Cテーブル：多様性、他者理解・共生
(人との関係性、世界、LGBT、障がい者、地域社会、大人など)
- Dテーブル：科学技術、IT、情報（新しい技術への適応、ICT、ロボットなど）
- Eテーブル：創造性・豊かな心（みずみずしい感性、文化・芸術など）

3. 特別講演の開催報告

■テーマ：「自分と社会をよくする子育て環境に向けて」

■講師：白井智子氏（NPO法人 新公益連盟 代表理事

／NPO法人 トイボックス アドバイザー／スマイルファクトリー 校長）

1972年千葉県生まれ。東京大学法学部卒業後、松下政経塾に入塾。1999年沖縄のフリースクール設立に参加、校長をつとめる。大阪移住後、NPO法人トイボックスを立ち上げ、池田市と連携して不登校の子どもたちのための全国初の公設民営フリースクール「スマイルファクトリー」を設立。2020年、NPOなど社会的課題の解決をはかる100団体余りが加盟する新公益連盟の代表に就任。現在、文部科学省フリースクール等検討会議委員などをつとめる。

■講演内容（抜粋）：

1. コロナ禍による子どもの心境の変化

- コロナ前は不登校の学生は「学校に戻りたい」という意識があったが、コロナ禍により「学校で窮屈な思いをして教育を受けても自分の未来が作れるか」と不安を感じている。
- 「**予測不可能な時代を生き延びるための知恵・知識・技術**」について、大人自身も学ばなければならない。今までの学校教育ではこれからの時代を生き抜けない。

2. スマイルファクトリーの特徴

- 「**ニューロダイバーシティ(脳の多様性)**」を理解して受け入れている。在籍校とも連携をとり、「自分にあった場所」が見つかるよう取り組んでいる。
- 「異年齢」を大事にしており、「高学年が低学年の面倒をみる、低学年は高学年を憧れる」など、昔の寺子屋のように、「**お互いに支え合うこと**」を重視している。
- 生活に必要な知識として、「衣・食・住」について学んでいる。例えば、コーヒーの入れ方や、家の借り方や選ぶ基準など。「**自立して生活できること**」を目標としている。
- 関係性の構築については、「どんな言葉が誤解を招いたのか」を一緒に考えるなど、「**体験を通じたコミュニケーション力の育成**」に努めている。



3. 自分と社会をよくする子育て環境に向けて

- 「不登校」に対する社会のイメージは、ネガティブなものから少しずつ変化しており、池田市とスマイルファクトリーは先進的なモデルケースになっている。
- 2016年に教育機会確保法が成立したが、現状では浸透していない。フリースクールの創設や運営等に向けた予算確保が必要である。
- コロナ前は、「課題を抱えた子どもに、必要かつ適切な教育をいかに保障するか」が重要であったが、「**予測不可能な時代を生き抜いていく力をつける教育**」をいかに**アップデートし続けるか**といった課題に変化している。「誰ひとり、どんな子どもも落ちこぼさない」といった「**個に寄り添う教育・子育て環境の実現**」が求められている。
- すべての親が子どもを育てる能力があるわけではなく、「**社会としてどう育てていくか**」が重要。問題を放置することが犯罪を生み、結果として社会に返ってくる。
- どの国も今までの教育に行き詰まりを感じている。



4. サロン（参加者どうしでの話し合い）について

■意見交換会の内容

特別講演を踏まえて、参加者どうしでアイデアを付箋に書き込み意見交換を行いました。全体のテーマは「池田市の“未来”の子育て・教育」ですが、5つのテーブルごとに、話し合う以下の5つのテーマを設定しました。

各テーブルには1名ずつテーブルファシリテーター（進行役）を配置し、参加者は興味のあるテーマが設定されているテーブルを選び、4,5人ずつのグループを作り、意見交換は、時間を区切って2ラウンドに分けて行いました。

A：公園、自然、外遊び

B：小中学校、幼稚園

C：多様性、他者理解・共生

D：科学技術、IT、情報

E：創造性・豊かな心

■テーブルでの意見交換の進め方

テーブルのテーマについての意見やアイデアについて、付箋に記入する時間を設け、進行役による進行のもと、付箋を模造紙に貼りながら順番に発表しました。

発表後、アイデアやあるべき姿などについて、自由に意見交換を行いました。出された意見は進行役が模造紙に補足して記録しました。

■全体発表について

意見交換の結果は、各テーブルの進行役が発表しました。発表後、模造紙を張り出し、「共感できるもの」、「よい取組・アイデアと思ったもの（実現したらいいな）」について、シールを貼って投票しました。

■ルール

サロンは参加者の主体性を重視した体験型のグループ学習形式（ワークショップ）のため、以下について留意のうえ実施しました。

- ①アイデアや意見は、1つに絞り込むことを目的にせず未来の理想像を膨らますこと。
- ②意見交換はお互いの考えを否定するのではなく、みんなで深めたり広めたりすること。
- ③発言者が偏らないよう、参加者全員が話せるよう進行すること。

■意見のまとめ方

出された意見は、「理想像」、「改善点」、「提案」など内容ごとにまとめました。赤い文字は投票のあった意見で、丸で囲って記載している数字は、投票された票数（共感できた意見、実現してほしいアイデア）を示しています。

■今後について

皆さんのアイデアや思いを「第7次池田市総合計画」に生かすため、池田市職員や同計画の各種策定会議で参考意見として検討するとともに、策定状況については、適宜説明に努めてまいります。

5. サロンで出された意見やアイデア

Aテーブル：公園、自然、外遊び

理想像

- ・市内にある公園をそれぞれ「テーマのある公園」にする ②
- ・観察できる公園（鳥、魚、昆虫、動物等） ・ 虫取りができる公園
- ・植物が身近な公園 ②
- ・花を育てる公園 ・ 大きな遊具がある公園
- ・食べられる公園をつくる
- ・果物、野菜を育て、収穫して食べられる ②
- ・食育 ・ 遊休地を畑にして親子で栽培を楽しむ
- ・スキンケア、薬にも作物を活用
- ・駅降りたらジャングル ② ・ 玄関口やまち全体が緑にあふれる状態にする
- ・プレイパーク（五月山） ①
- ・子どもが提案して、作って、メンテナンスする公園 ④



改善点

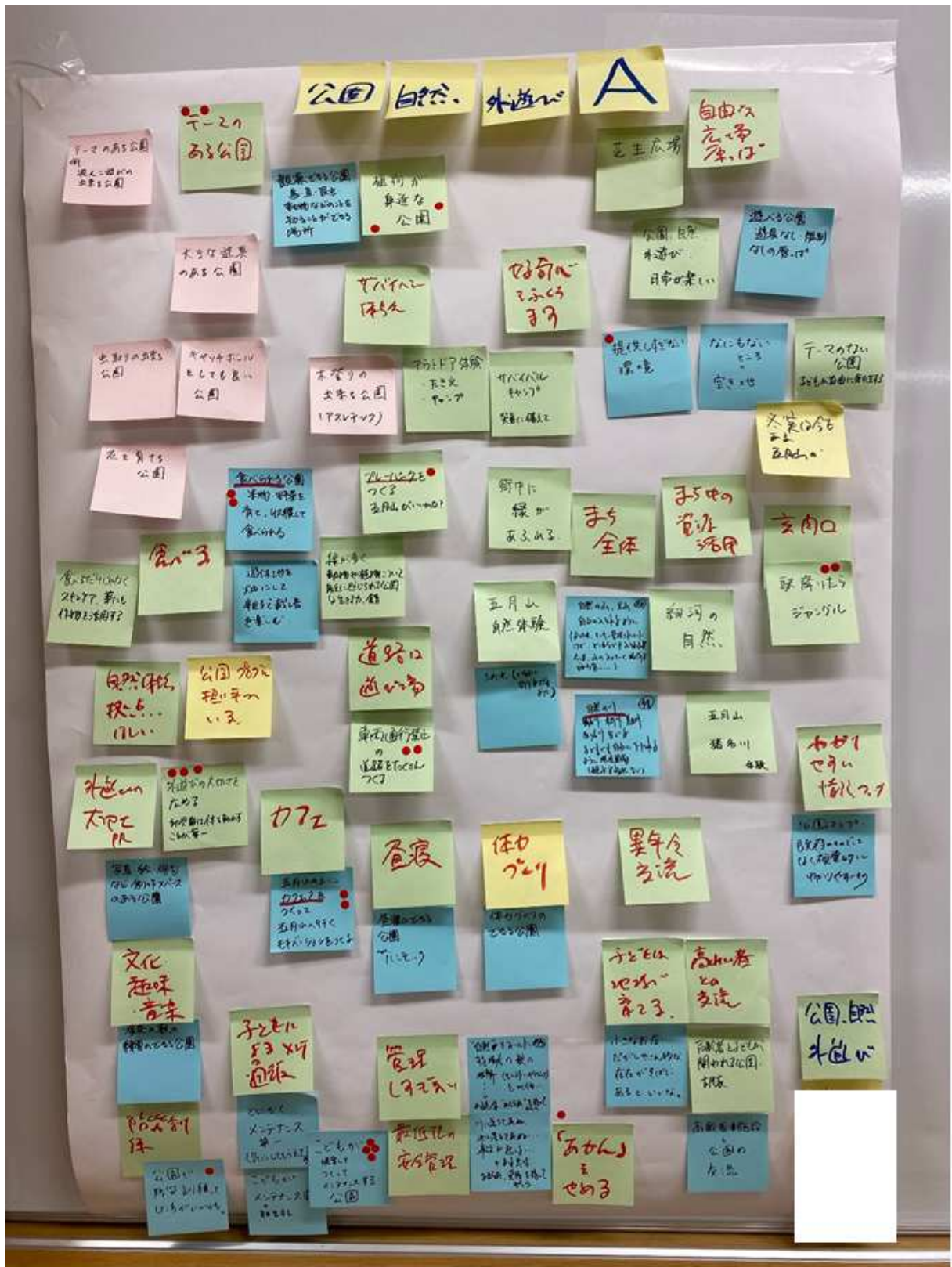
- ・自由な広場、規制がない原っぱをつくる
- ・芝生広場 ・ 子どもが自由に創造する ・ 遊具なしの公園
- ・提供しすぎない環境 ① ・ なにもないところ＝空き地 ・ テーマのない公園
- ・焚火 ・ 木登り
- ・「あかん」をやめる ① ・ 管理しすぎない
- ・“自然”をフィールドに遊ぶ場合の危険に対する親の理解促進
- ・ある意味”あきらめ”を持ってもらう ・ 最低限の安全管理
- ・キャッチボールをしてもよい公園 ・ 木登りのできる公園（アスレチック）
- ・演奏や歌の練習ができる公園 ・ 写真・絵・俳句など創作スペースがある公園
- ・昼寝のできる公園（ハンモック） ・ 体力づくりができる公園

提案

- ・自然体験拠点ほしい（以前あったが今は廃止された）
- ・まち中の資源を活用（細河の自然、五月山、猪名川、ため池）
- ・公園で防災訓練 ①
- ・五月山の上にカフェをつくる ②

その他のアイデア

- ・外遊びの大切さをPR ③
- ・道路は遊び場。「車両通行禁止」の道路をたくさんつくる ②
- ・サバイバル体験の場所をつくる ・ 災害に備えたサバイバルキャンプ
- ・異年齢交流 ・ 子どもは地域が育てる
- ・高齢者との交流 ・ 高齢者施設と公園の交流



※個人情報は白抜きにしています。

Bテーブル：小中学校、幼稚園

理想像

- ・「誰もが学びやすい」教育環境をつくる
- ・ **周りとくらべない教育 ①**
- ・ **学校以外の教育の場をもっと作る ①**
- ・ でこぼこの子どもと同じクラスにいて学びを得られるようにする
- ・ 多様な教育 ・ 個人の良さも集団の良さも子供に伝える



改善点

- ・ 「ここしかない」感を和らげるため、複数のクラスに所属するようにする
- ・ 苦手なことを言い出しやすい環境を整える ・ 特長を発揮できる教室にする
- ・ 校区関係なく学校を選べるように ・ 「学童」をもっと活用する
- ・ 学習のスピードの違いに対応した教育
- ・ ディスクレシア（読解に関する発達障害）のすくいあげ ・ 少人数教育
- ・ 親が教育について理解しやすくする ・ 発達障害に理解のある先生の育成
- ・ 学年をこえて関わる機会を増やす。信頼できる先輩後輩関係を築く
- ・ 小中一貫の特徴をもっといかした教育

提案

- ・ **オルタナティブスクールを選べるようにし、通うための助成金を出す ②**
- ・ **他人の「すごい」を見つけられる文化の熟成 ②**
- ・ **こどもが小学校1年生になる時に、親へ多様な教育についてレクチャーする ①**
- ・ **部活動を外部へ任せるなど、先生方の時間の余裕を増やす ⑤**
- ・ 森の幼稚園やプレーパークなどの自然体験施設を増やす。

その他アイデア

- ・ 公立にイエナプラン教育を取り入れる（オランダで発展した個性を大切にしながら自発的に学ぶ教育方法） ・ 五月山や猪名川を教育に有効活用する
- ・ オルタナティブ教育、幼児教育（しかり方など）について学べるようにする
- ・ ネットに教育関連情報を公開し、親が情報にアクセスしやすくする
- ・ 対話型AIロボットではなく実在する人と遠隔でお話する場所をつくる。異年齢交流
- ・ ケアマネさんのような教育のアレンジャーがいるとよい ・ 先生の育成・サポート
- ・ 教員の交換留学（フリースクールなどと） ・ 子ども自身での商売体験
- ・ **教育の多様性が日本一のまちを目指す ③**
- ・ 出前授業（産総研、大学、メーカー）で科学への興味を養う
- ・ 学内留学などで異文化への関心を養う ・ 自然教育 ・ 副教科を充実させる
- ・ 中学校版のスーパーサイエンスハイスクール、スーパーグローバルハイスクール教育
- ・ 小中学生にレクチャーし、外国人の観光案内をしてもらう ・ 動植物を育てる
- ・ 将来をリアルに考えるため、一人暮らしできる知識と経験を身につけるための「家庭科」

Cテーブル：多様性、他者理解・共生

(人との関係性、世界、LGBT、障がい者、地域社会、大人など)

理想像

- ・「自己肯定感」を上げる教育 ⑦
- ・他人の意見を聞く思いやりを持つ
- ・ジェンダーへの理解
- ・正解ばかりを求めない教育（いろいろな意見を尊重する）
- ・いろいろな人に安心して出会える場所、機会がある状態
- ・大人に少し心のゆとりがあって、子どもを気かけられる
- ・自主性が持てる（全部を用意するのではなく、できる範囲をさせてあげる）



改善点

- ・年代を超えて話す機会をつくる（現状では、同学年の人としか話さない） ②
- ・分野・世代ごとの取組を超えたい（縦割りをつながりに）
- ・発達の違いを早期に発見するシステム（既設）の活用

提案

- ・日常生活での自然体験が大切 ①
- ・「地域と交流」を持つ
- ・池田で活動している団体をまとめる。コミュニティを作る（市がとりまとめる） ①
- ・オンラインでの語学から「文化の理解」へつなげる ②
- ・他者の立場を理解するために様々な経験の場を設ける ①
- ・いろいろな仕事（職人）と会える ②
- ・発達支援課管轄のイケダスを全市民に展開
- ・「市民の多様性」に対応するための課をつくる。子ども～成人～高齢者までを網羅

その他アイデア

- ・縦のつながり。・地域のみつりなど
- ・伝統行事の存続、活用
- ・地域・国の強さにつながる
- ・「助けあう工夫」を学ぶ
- ・「池田市公認の障害者マーク」を作り、道で困っている時に声をかけやすいようにする
- ・「声をかけてもらうための工夫」があるといい
- ・「海外の文化」を理解する
- ・地域の掲示板でつなぐ（助けてほしい、助けてたい）
- ・LGBTQの研修が必要
- ・高学年と低学年の子どもをマッチングし、お互いが相談役になる
- ・年上の子が年下の子に授業をする（勉強だけでなく、その子とも仲良くなれたらいい）
- ・「命の大切さ」を体験できる。赤ちゃんが学生とつながっている（赤ちゃん先生）
- ・世代間交流（学校以外のコミュニティづくり）。家族にも紹介してつながりができる
- ・日本にいる海外の人との交流（異年齢交流）
- ・SDGsとの関連づけ
- ・オンラインでの留学。どこかの都市との交流イベントを行う
- ・「海外との意見交換」で多様性を学ぶ（リモートによる交流）
- ・「社会人との交流」で想像力を豊かにする体験
- ・最終目標は「脱分類」の世界
- ・「多様性」、「他者理解・共生」に向けた体制づくり

Dテーブル：科学技術、IT、情報（新しい技術への適応、ICT、ロボットなど）

理想像

- ・体験を重視した教育 ① ・「個人に合わせた教育」をITで実現①
- ・「情報リテラシー」を重視した教育 ③ ・「個人に合わせた教育」をITで実現①
- ・AIを活用し、個別に最適な学習を進める
- ・すべての人に快適な生活を。道路の管理（ドライブレコーダー等で効率化） ①
- ・「スマホ、タブレットは全員が持っている」＋「通信料は無料」の環境づくり

改善点

- ・スマホ、ネット依存とならない対策
- ・子どもの頃から「不便さを便利にするために何が必要か」を考えるクセづけ。①
- ・インフラ整備・体制づくり

提案

- ・「得意（特異）なこと」を伸ばせる仕組み。例：得意分野（理系と文系）とAIの活用法
- ・ITで実現できる世界、楽しみを見せる ・大学と小中高の連携 ③
- ・理系、文系問わず、統計学と英語を基礎学力に！ ①
- ・宇宙へ修学旅行（コロナもない！？） ②
- ・メーカーや大学と協力し、職種の体験をする ①
- ・子どもから大人までが受けられるオンライン授業
- ・人手不足には最新技術を積極的に導入。みんなで楽する



その他アイデア

- ・オリヒメロボットのような対話（ひきこもり、一人暮らし向け）
 - ・「遊び」の要素を増やす ・「やる気のスイッチ」をITで押してあげたい
 - ・プログラミングを用いて、「モノを作る喜び」を知ってもらう ・待てる教育
 - ・ロボットを自分で作り、動く仕組みを学ぶ ・人気キャラ（VTUBER）がやってくれる
 - ・学習の行き詰まりポイントまでさかのぼる ・基礎に戻れる環境 ・教えあいの場
 - ・池田市のオープンデータを使って何かできないか ・大人にとっても新しい発見 ①
 - ・文部科学省がオンライン教材を提供 ・「ITや情報との向き合い方」を考える
 - ・YouTubeのヨビノリ（予備校のノリで学ぶ）の活用 ・大人も新しい技術に対応していく
 - ・先生も変わらないといけない ・わからないことから逃げないで学ぶ
 - ・ネットの世界での小さな失敗を経験 ・IT化には目的が必要
 - ・LINEなどでのトラブル事例を自ら解決する力（ケースワーク？）
 - ・おじいちゃん、おばあちゃんの「力」を最大限に活かす
- IT、SNS 使い方を知った高齢者は強い
- ・阪大レゴ部との連携 ・学校のIT化を生徒たちが実現
 - ・アプリを活用した連絡帳（登録制、情報伝達）
 - ・アウトプット（アプリ、動画）重視のIT利用教育
 - ・大学生の活用（小中高の先生として、生活と貢献の両立）



Dグループ

寺の
修繕
(2014.10.17)

AI活用
AI活用
AI活用

先生も
変わらない
いけない

遊びの要素
を増やす

LINEなどの
ツールも
自分解る力
(4-27-7??)

今の使
便利にするため
に何かの
考えを

特異
伸ばせる
仕組み

大人とここの
新しい発見

大人も
新しい技術に
対応していく

PC授業
(他)
決まってる
かな

プログラミングを
用いて、もは作る
喜びを

ロボットを自分で
作り、動く仕組み
を

やる気の
スイッチ
を押して
あげよう

体験を
重視した
教育

おもしろ
こと
遊び

教える
場

理系
文系
理科
算数
英語

ロボット
(AI)
AI活用
AI活用

AIを活用し
個別最適
学習を

学習の
個別最適
学習を

個人
教育
by IT

情報リテラシー
科学技術
リテラシー

人手不足には
最新技術
導入
必要

IT-SMS
おもしろ
おもしろ
力
最大限
活用

7.11
倉庫
あ

人気 (VUBER)
チャ
や

ITには
目的が
必要

基礎に
なる環境

AI活用
(音楽)
絵
絵

ネット
が
フリー
オンライン教材

YouTube
YouTube

待てる
教育

大学
小中高の
連携

カーヤ
協力
体験

大学生の
活用
(生活と
学習の
両立)

阪大
連携

22年
ネット
活用

インフラ
(教育以外)
重要

すべての
快適な生活
道路管理
(AI活用)

選
(登録)
情報

池田
ネット
活用

ネット
活用
活用

ネット
活用
活用

ネット
活用
活用

Eテーブル：創造性・豊かな心（みずみずしい感性、文化・芸術など）

理想像

- ・「好奇心」、「探求心」、「想像力」を育む
- ・「文化」からの創造教育（自然、文化、芸術、山、川、歴史）
- ・新文化も生み出す
- ・地域の歴史を知って「つながり」を感じられる心を育てる ①
- ・「多様性」から刺激しあう関係を。「感性」に働きかけよう！

改善点

- ・創造性・豊かな心を生み出すための「環境整備」

提案

- ・子どもの好奇心に耳を傾けよう ①
- ・多世代、年齢幅のある交流 ①
- ・留学生、海外から日本に働きに来ている方との文化交流（体験型でできたら） ⑤
- ・「色」に関する教育。街並み、建物からも感性に働きかける ④
- ・自然教育、遊びは重要 ④
- ・「山の学校」プログラム ①
- ・アーティストが暮らしていける環境づくり、モデルケース（アーティストを育てる） ④

その他アイデア

- ・言語習得に向けた機会（手話等含む）
- ・「音楽」を常に身近に感じられる環境づくり
- ・お互いの文化を紹介（日本の文化も紹介）。異文化を知り、ふれ合う。
- ・池田市は「芸術文化都市」
- ・「自然体験」、「遊び」から発見する学び
- ・サバイバルキャンプなど、自然体験ができる拠点。野外活動センターの設置など
- ・「人から話を聞く」という体験 ・「池田」について学ぶ「池田学」
- ・「おもしろい」と思う相手から話を聞く。授業のようにやらされ感でなく、自主性が大事
- ・アポイントも子どもたちで。学校は訪問先リストを作る（全部を準備しないサポート役）
- ・地域の歴史に誇りを持てるよう「自慢ポイント」を収集
- ・「まちぶら」的なものをする
- ・伝統体験（芸能、技術に触れる）
- ・子ども落語まつり ・「池田をめぐる」仕掛けづくり
- ・めぐるきっかけとして、ゲーム性を持たせる
- ・池田芸術スタンプラリー（市内の博物館、文化財めぐり）
- ・町なか美術館（子どもから大人まで作品を募集。絵や彫刻などを商店、駅などにかざる）
- ・絵や音楽など、文化芸術にお金を払う取組
- ・とりあえず、動画で発信を行う



E-テーブル

おもて

好奇心
探検心

好奇心
に耳を
かむ向ける

想像力
を養う

新文化

芸術
文化都市
「池田」

文化発
創造性

創造教育
(創造的
学習...)

多様性

年齢の幅の
交流

種々の
言語習得
機会
(多言語)

留学生の
海外から日本に
来るとの文化
交流 (体験型)

感性

感性に
関する
教育
→ 町並み、自然

多世代
交流

刺激
への
関係

異文化を
知る
ふれ合う

音楽を
常に
身近に
感じる
環境作り

自然

自然
教育

山の
学校

自然
環境
の中
で
発見
する
事
(体験)

サバニル

池田にある
体験教育

体馬舎

人から
話を聞く

授業は
おぼろげ
に
わかる?

リスト
を
も
と
に

ア
ラ
ブ
は
自
分
で

自主性で

やらせ
感

おもしろ
い

思い
やり

池田学

池田町の
歴史を
知る

地域の歴史を
知ると
感じる
教育

伝統
体験
(異文化
体験)

歴史に
関する
資料
を
収集

子ども
落語
まつり

ア
ラ
ブ
は
自
分
で
環境
作り
体験
etc.

めぐる

池田芸術
スタジアム
(池田町民会館
など)

町内の美術館
(子どもから
大人まで
楽しめる
施設
など)

個性

発信

孫
や
音楽
に
お
き
き
を
す

「おもしろい」
動画